

## ミレニアム開発目標(MDGs)の現状 — ミニ解説

### 【目標1:とてつもない貧困と飢えをなくそう】

＜ターゲット1-A＞2015年までに1日1.25ドル未満で生活する人の割合を1990年の水準の半分に

- ・途上国で1日1.25ドル未満で暮らす人の割合は、1990年の47%から2010年には22%に減少しました。
- ・この半減の達成には、中国の経済成長が大きな影響を及ぼしています。上記の途上国全体のデータから中国を除いたデータを見ると、1990年は41%で、2010年は26%となっており、半減には至っていません。
- ・人数で見れば、2010年に極端な貧困状態で暮らす人は、1990年に比べると7億人減少しました。
- ・このように状況は改善されていますが、現在でも8億500万人(※)、8人に1人以上が飢餓状態にあります。

### 【目標2:みんなが小学校に通えるようにしよう】

＜ターゲット2-A＞2015年までにすべての子どもが初等教育の全課程を修了できるようにする

- ・調整後初等教育純就学率とは、公式な初等教育就学年齢の子どもたちのうち、初等教育または中等教育を受けている子どもたちの割合です。
- ・1990年には80%だったこの就学率は、2012年には90%となり、すべての子どもの就学に少しずつ近づいています。しかしこれは、いまだに10人に1人が小学校に通えていないという現実を示しています。
- ・初等教育就学年齢の子どもたちのうち学校に行っていない子どもの数は、2000年は1億人でしたが、2007年には6000万人と大幅に減少しました。しかしその後のペースは鈍化し、2012年では5800万人にとどまっています。

### 【目標3:ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう】

＜ターゲット3-A＞2015年までにすべての教育レベルで男女格差を解消する

- ・このグラフでは破線で示されている「1」が男女格差のないレベルです。
- ・2012年のデータを見ると、初中高等教育の各レベルで0.96~0.99と1.00までもう一步のところまで来ています。0.97~1.03は、格差がないと言っても構わないレベルです。
- ・しかし、国や地域で大きな差があります。例えば、サブサハラ以南のアフリカ諸国では0.84、オセアニアでは0.87と、この2地域のみ0.9以下となっています。

### 【目標4:子どもの死亡率を下げよう】

＜ターゲット4-A＞2015年までに5歳未満児の死亡率を1990年の3分の1に減らす

- ・出生1000人あたりの5歳未満児死亡率は、1990年の99から2012年には53と46%も減少しました。しかし、目標である33まではまだ及びません。
- ・2012年世界では、1日1万8000人の子どもたちが予防可能な病気で5歳になる前に命を落としています。

### 【目標5:女性が健康な状態で妊娠し、子どもを産めるようにしよう】

＜ターゲット5-A＞2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の4分の1に減らす

- ・出生10万件あたりの妊産婦死亡率は、1990年の430から2013年には230と46.5%も減少しました。しかしこれは、先進国の14倍という高い死亡率です。
- ・途上国では、医師、看護師、助産師といった医療の専門家の支援を受けて出産する女性の割合が先進国に比べて低く、1990年は56%でした。2012年には増加しましたが、それでもまだ3人に2人(68%)です。

・また、都市部と農村部の違いは大きく、農村部だけを見ると、2000年から2012年の間の出産4000万件のうち、専門家の支援を受けた出産は800万件でした。

#### 【目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がるのを防ごう】

##### <ターゲット6-A>2015年までにHIV/エイズのまん延を阻止し、その後、減少させる

- ・15歳～49歳の人で新たにHIVに感染する人の割合は、2001年には100人あたり0.10人でしたが、2012年には0.06人と約3分の2に減少しています。
- ・3分の2になったとはいえ、いまだに年間230万人が新たにHIVに感染し、推計ではそのうち7割がエイズ関連の病気で死亡しています。
- ・マラリアでは対策により、2000年から2012年にかけて300万人の子どもたちの命が救われました。
- ・結核では治療の実施により、1995年から2012年の間に2200万人の命が救われました。

#### 【目標7: 環境の持続可能性を確保しよう】

##### <ターゲット7-C>2015年までに安全な飲料水と衛生施設を継続的に利用できない人々の割合を半減する

- ・改善された水源\*を利用できる途上国の人々の割合は、1990年の70%から2012年には87%になりました。
- ・先進国も含めるとこの割合は、1990年の76%から2012年には89%に増加し、この22年間で新たに23億人以上の人々が改善された水源を利用できるようになりました。
- ・トイレに関しては、改善されたトイレ\*を使えるようになった人が1990年から2012年の間に20億人増加しました。しかし、依然として10億人が屋外排せつをしています。
- \*「改善された水源」: 水道が引かれている、公共の貯水塔や掘り抜き井戸、汚染を防止した井戸や泉、雨水集積装置による水源のこと。「改善されたトイレ」: 排せつ物が人間との接触がないよう衛生的に管理できるトイレ。

#### 【目標8: 世界の一員として、先進国「も」責任を果たそう】

- ・先進国の政府開発援助(ODA)は、2012年から2013年にかけて6.1%増加しました。
- ・経済協力開発機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)メンバー国からの援助は、2013年には計1348億ドルに上り、過去最高を記録しました。
- ・国民総所得(GNI)に対する2012年のDACのODAの割合(最貧国に対するもの)は、0.09%と2008年以来最低を記録しました。
- ・1970年国連では、先進国が果たすべき目標としてGNIに占めるODAの割合を0.7%以上にすることが決議され、「1970年代半ば」までの達成を求めていましたが、これまでに達成したことがある国は、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、オランダ、ルクセンブルク、イギリスのみです。
- ・DACメンバー国からのODAは、2010年にはGNI比で0.32%、2011年0.31%、2012年0.29%と減少しました。2013年には0.3%と増加に転じましたが、後発開発途上国(LDC)と呼ばれる最貧国を直撃しています。
- ・2013年のアフリカ(LDC48カ国のうち34カ国が含まれる)への二国間援助は5.6%減少しました。
- ・DACの調査によれば、援助は最貧国とアフリカから大きな貧困人口を抱える中所得国へシフトし、返済が不要な援助から低利のローンへと移っています。

出典: (※) "World hunger falls, but 805 million still chronically undernourished" (Food and Agriculture Organization of the United Nations) <http://bit.ly/1B1gEWK> その他は国連の報告書 *The Millennium Development Goals Report 2014* <http://bit.ly/1qDMdg9> (PDF版)